

DV被害者への理解と支援

～ジェンダー平等社会を築こう

認定NPO法人 女性と子ども支援センター
ウィメンズネット・こうべ

目次

- 1、DVとは？
- 2、被害者心理 加害者の特徴
- 3、子どもへの影響
- 4、DVはなぜ起きるのか？
- 5、被害者支援について
- 6、DV防止に向けて

1. DVとは？

DVとは？

**夫・恋人からの暴力
ドメスティック・バイオレンス(DV)**

(DV防止法では配偶者間の暴力のことです)

DVの実態

女性の4人に一人がDV（身体的・精神的・性的暴力のいずれか）を経験・27.5%

10人に一人は何度も暴力を受けている・13.2%
被害女性の6人に一人が命の危険を感じる程の暴力を受けたことがある・15.6%

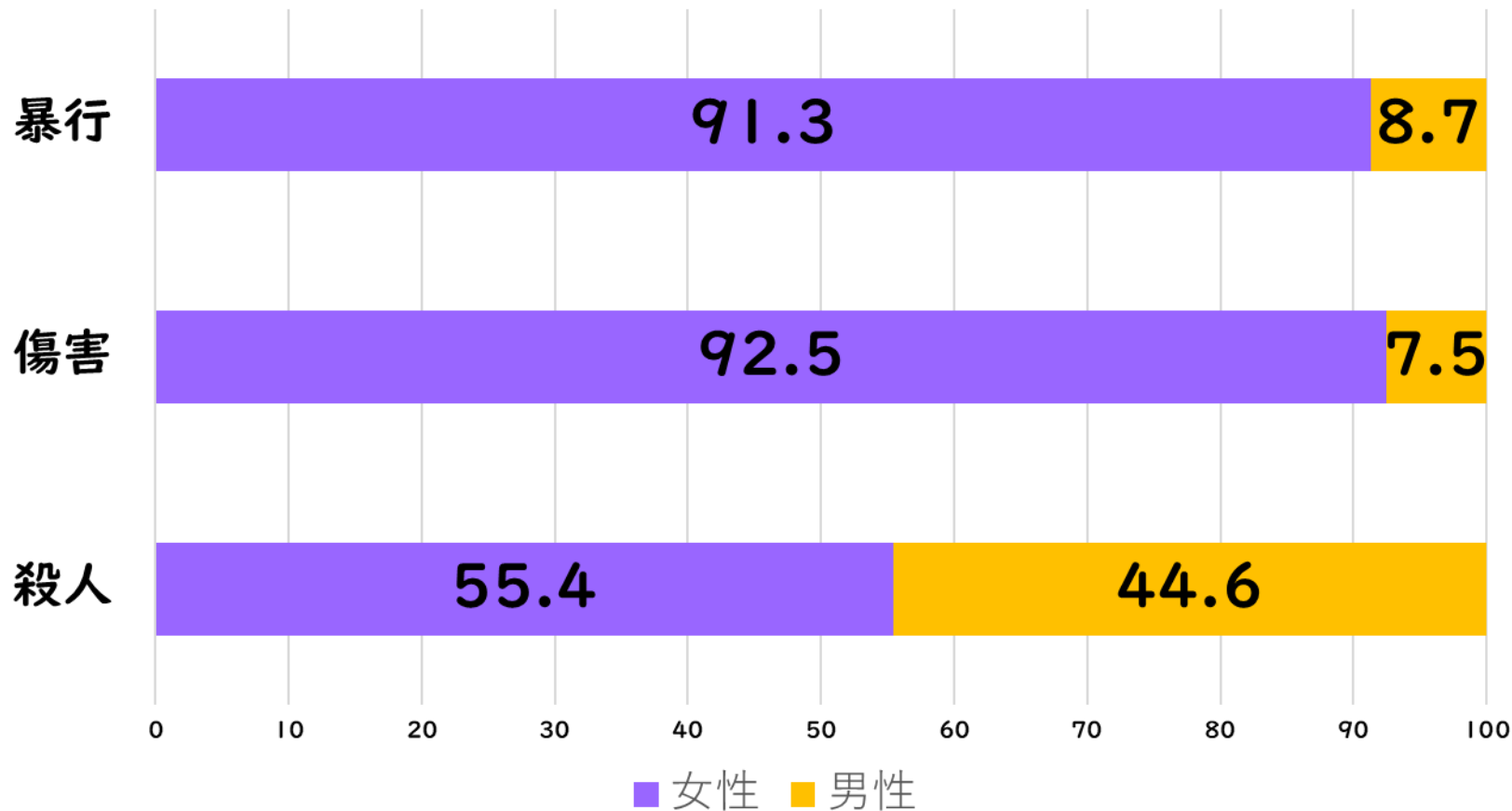
（内閣府男女共同参画局 2023年度調査報告より）

DVの実態

DVを受けて別れた女性	20.1%	2023年度
別れたかったが別れなかった女性	46.7%	
別れなかった理由	子どものため	65.8%
その後の経済的不安	女性	44.7%
誰にも相談しなかった	40%	
相談しなかった理由		
相談するほどのことではないと思った	47%	
自分にも悪いところがあると思った	32%	
自分さえ我慢すればやっていける	21%	

(内閣府男女共同参画局 2014年度調査報告より)

DV事件の被害者(%)



2017年警察庁 調査

力による支配

(パワーとコントロール)

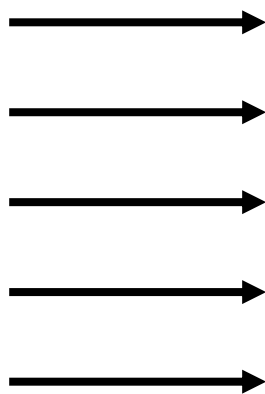
力による支配



力の差



健康な人
大人
若い人
お金持ち
男の人



病弱な人
こども
お年より
お金持ちでない
女の人

みんな対等

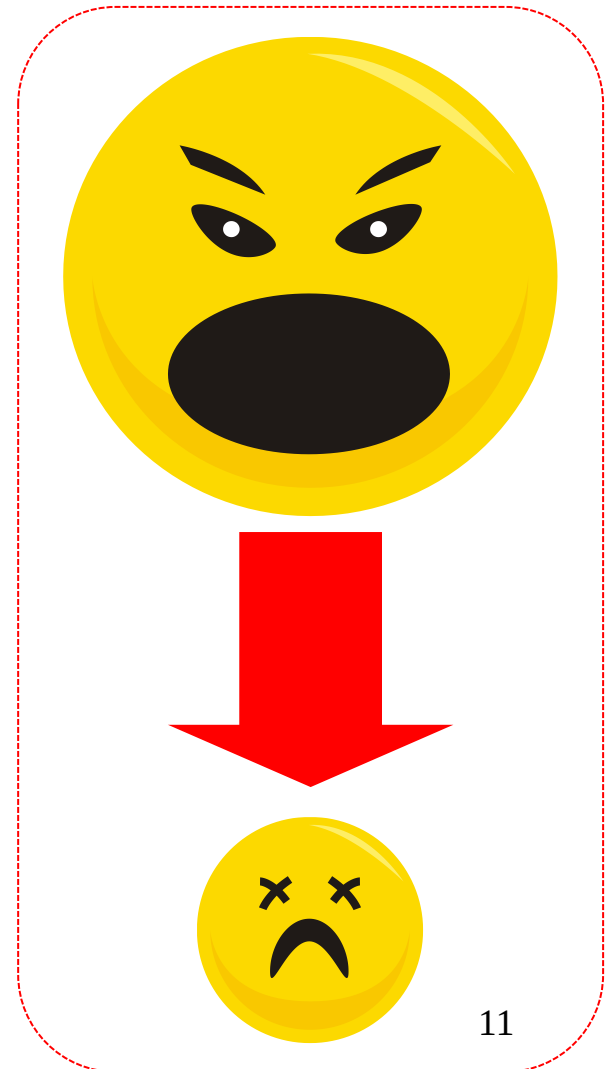
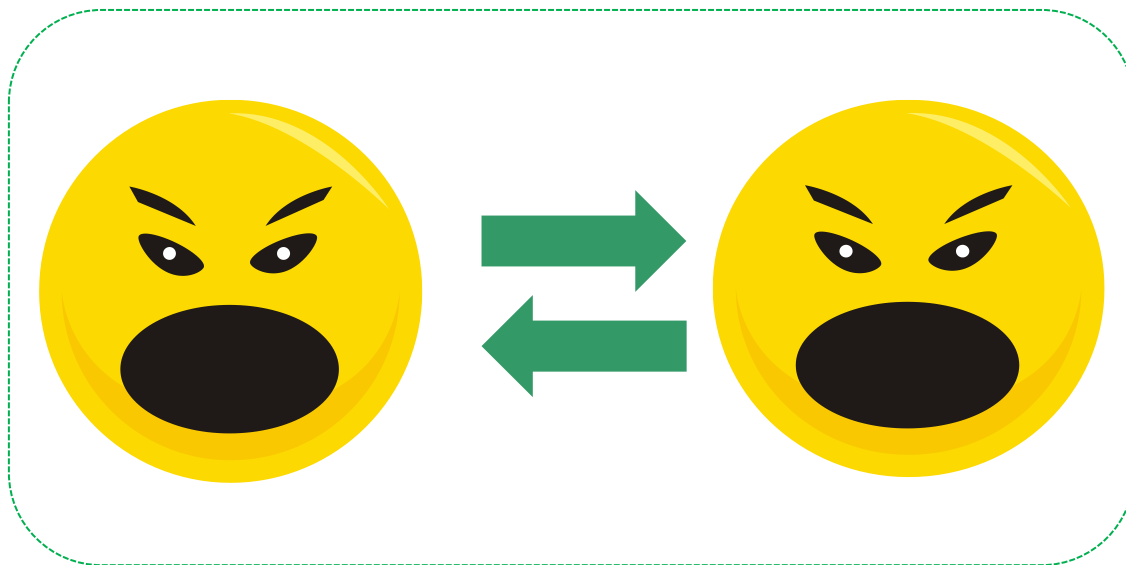
相手を支配するための手段

⇒ **暴力**

暴力を受けると、だれでも不安になり、
相手をこわがるようになり、
自分に自信が持てなくなります



けんかとDVの違い



暴力を受けていい人なんていません

- ・自由がない、きゅうくつ、怖いと思ったら
それは暴力を受けているということです
- ・ひとりで我慢していると、
からだ にも **こころ** にも、
マイナスの影響がでてきます

暴力の種類 1

- ・身体的暴力… 殴る、ける、物を投げつける
- ・精神的暴力 … 怒鳴る、けなす、壁に物を投げる
無視、おどし、自殺をほのめかす・長時間の説教
- ・経済的暴力 … 働かせない、借金をさせる
生活費をわたさない
- ・子どもを利用した暴力…子どもに暴力をふるう
子どもの前で非難する

暴力の種類 2

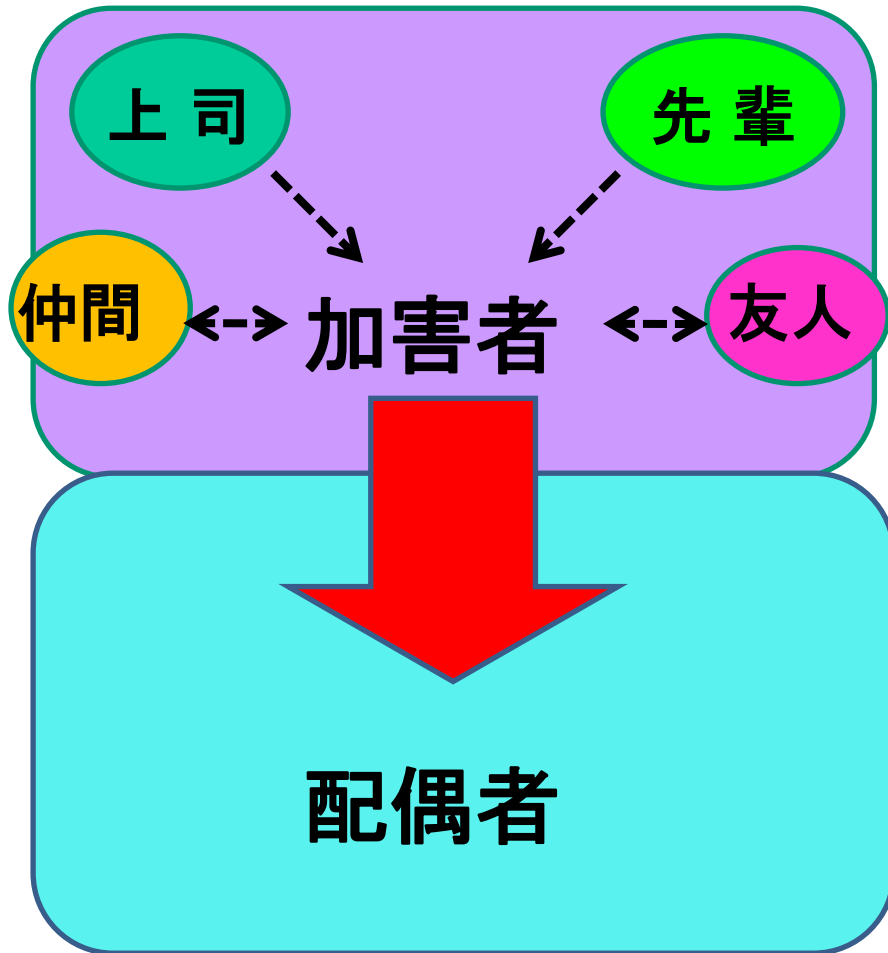
- ・社会的暴力・・・家族、友人に会わせない
スマホチェック、行動チェック
自由に外出させない
- ・性的暴力・・・望まないセックスの強要
避妊をしない
→ 望まない妊娠、中絶、性感染症

どんな人が暴力をふるうのか？

イライラやお酒を飲んだせいで起きるのではない
学歴や収入などとは関係ない

- 妻や子どもは自分の“モノ” だと思っている
- 相手を下に見ている
- たいしたことはしてないと思っている
- 相手を思いどおりにするには
暴力が効果があると思っている

DV のしくみ

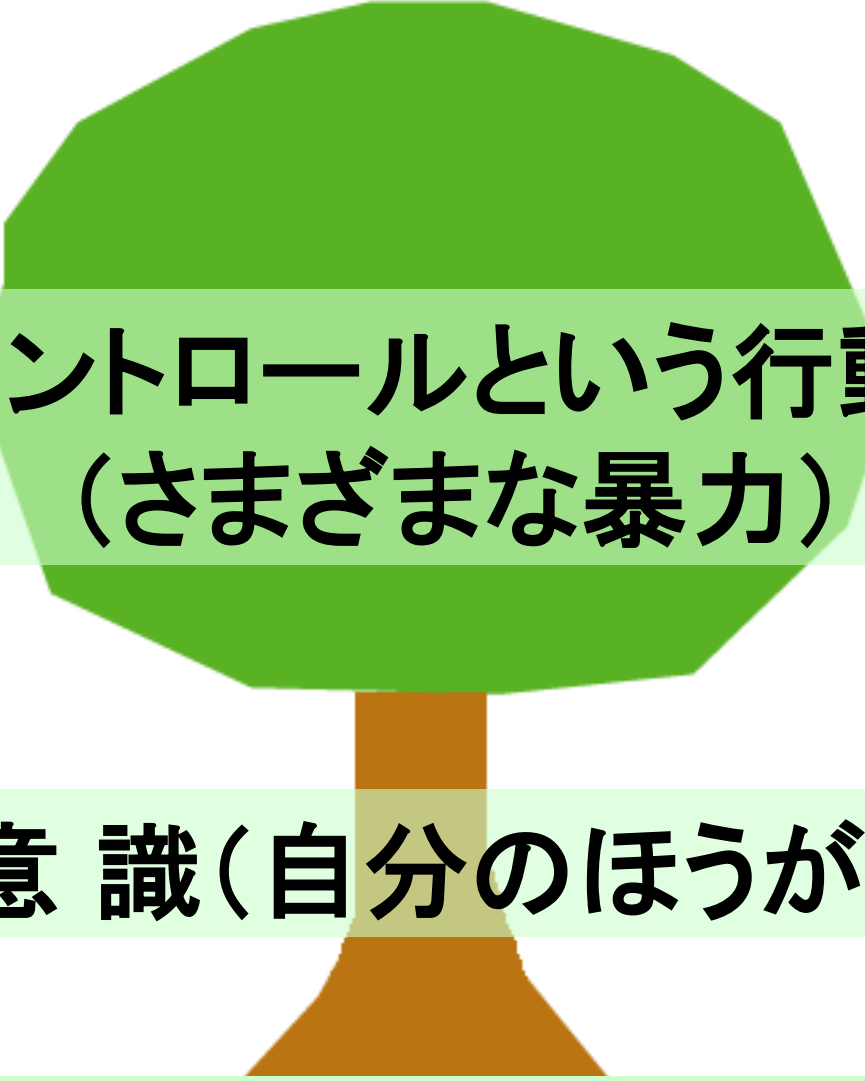


←加害者が、自分と
対等か自分より上
だと思う相手

: 暴力をふるわない

←加害者が、見下し
ている相手

: 暴力をふるう



コントロールという行動
(さまざまな暴力)

特権意識(自分のほうがエライ)

所有意識(自分のモノ)

2、被害者の心理

加害者の特徴

被害者の心理

- ・ 暴力は安心や自信をうばう
- ・ 無力感・孤立感 自尊感情の低下
- ・ 自責感情が強く、鬱傾向がある
- ・ 社会的サポートの不足。将来への不安
- ・ PTSD 複雑性PTSD(過覚醒、感情麻痺、フラッシュバックなどに苦しむ)

**何をやってもだめな私ー彼の言うことを聞いてい
れば良い**

加害者の神格化ー絶対的な存在

加害者の特徴

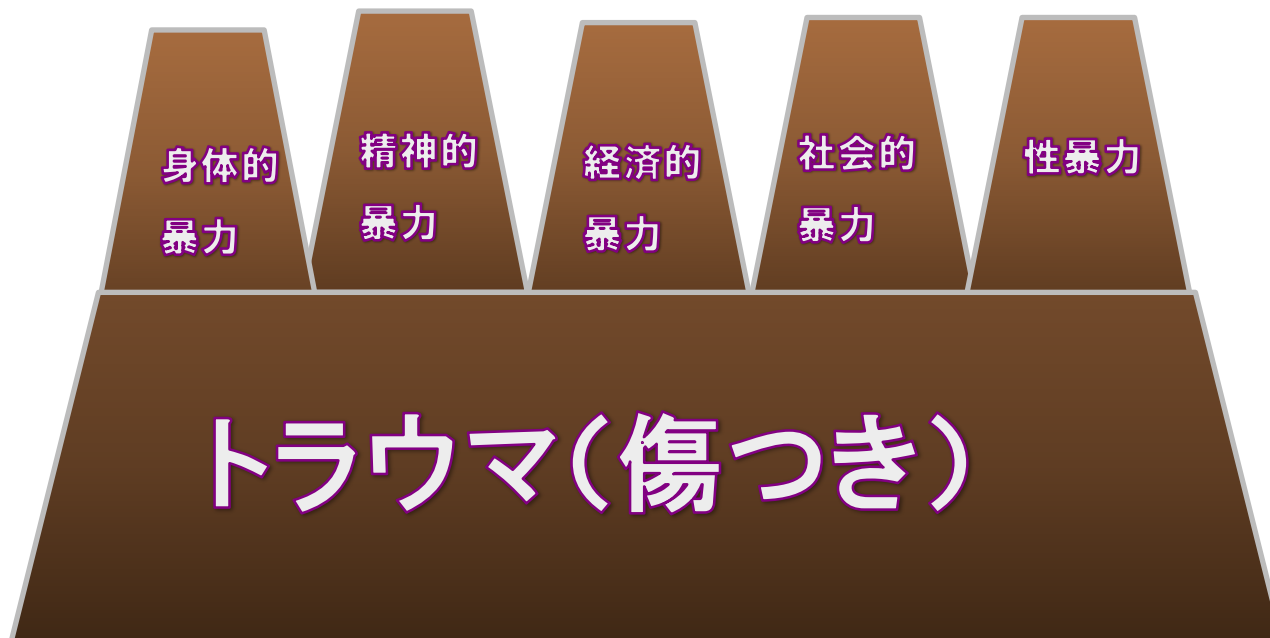
1. ソトヅラとウチヅラの不一致
2. 自分はたいしたことはしていない
3. 被害者非難と責任のがれ
4. 多様な支配行動
5. 子どもの利用と虐待
6. 酒・薬物への責任転嫁
7. 自己変革への抵抗(変わろうとしない)

D V とは？

- ・恐怖による支配
- ・相手の自己決定を奪う
- ・相手の安心・自信・自由・成長を奪う
- ・自分は生きていても価値のないものと思わせる
- ・周囲から遮断し孤立させ、夫にのみ依存させる

**D V 家庭では、誰も加害者の暴力を止められない！
暴力はエスカレートする**

暴力から離れても……



3、子どもへの影響

～DVは児童虐待です～

**改正児童虐待防止法に
DVは心理的虐待と明記**

子どもの心身の発達に影響を与える

- ・ 自尊感情の低下
- ・ 暴力でものごとを解決することを学習しがち
- ・ 面前DVは脳に影響を与える
- ・ チック・不眠などの身体症状や、多動・学習困難
攻撃的などの問題行動
- ・ 不登校、人間関係を築くのが苦手、孤立しやすい
- ・ 母子関係・兄弟関係にゆがみをつくる

子どもの問題行動の背景にDVがあるかも・・・

子どもへの性虐待

18歳未満の女子の39.4%、男子の10% 性的被害

13歳未満 女子15.6%、男子 5.7% 性的被害

日本性科学情報センター「『子どもと家族の心と健康』調査報告書」1999年）

国際的な研究では

性的虐待は 女子の3～4人に一人（RUSSEL 1986年）

男子の5～6人に一人に起きている（RUSSEL 1990年）

男子は女子に比べてはるかに多く家庭外で被害を受けている

被害年齢が幅広く、性的虐待の被害児の平均年齢は9・3歳

加害 保護者が6～16% 親類等25% 知らない人5～15%

性暴力

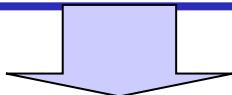
被害にあった時期

20歳代	49.6%
中学卒業から19歳迄	23.1%
中学生	2.6%
小学生以下	11.1%

（内閣府調査 2014年調査）

DV家庭における性虐待

D V 家庭では 6 倍との報告（米国）



DV被害女性の16%以上が過去に性暴力被害あり
1強姦 2近親強姦 3強制売春 被害は10代～20代に集中
DV被害女性の53%がパートナーから性暴力被害

DV家庭における子どもへの性虐待
確認できた子ども6%(一般児童 3%)
加害者は実父が86% 96.9%の加害者が家の中の近い男
平成20年 全国シェルターネット調査

DV家庭では誰も性暴力を止められない さらに暴力へ

子どもの回復に向けて一聴くことのパワー

- ・早い時期に話をしっかり聴いてくれる人、援助者に出会えたか

子どもへの長期的影響

- ・人への信頼することへの恐れと疑い
- ・無力感・自責感情や自己嫌悪・セクシュアリティの混乱
- ・PTSDの発生率が非常に高い 戦争で起きるよりも高い。
- ・世界全体への不信感、日常生活が困難 生きづらさを抱える

彼らが語ることを否定せず、分析せず、助言せず、同情せず、同感せず、ただ共感して相手の感情を認めてあげることー共感的傾聴

子どもの心のケア

回復する力(レジリエンシー)に 影響を与える要素

- 安全・安心な生活環境の保障
- 自分の苦しみに寄り添ってくれる大人
- 非加害親との相互支援的な信頼関係がある
- DV家庭で学んでしまったかも知れない価値観を
学びなおす

援助者と子どもとの安心な 信頼関係を築くには

- 子どもを尊重する態度を徹底する
- DVの責任は子どもにない事を理解させる
- 加害者の問題行動に対しては、まちがっていることを教えるが、両親に抱くどんな感情も語ってよいと伝え、共感的に聴く

非暴力の子育て

- ・気持ちを言葉で表現できる子ども、スキルを育てる
- ・喜びや悲しみ、怒りなど、どんな気持ちも大切なことだと伝える
- ・成功体験だけをほめるのではなく、失敗したときも認めて勇気づける

「今、どんな気持ちかな？」

「君は どうしたいのかな？」

自己尊重や自己肯定の気持ちが育つ

子どもを救うには

母親のこころのケアや
支援が重要です

4. DVはなぜ

起きるのか

1. 力による支配

過去の経験からさまざまな力で相手を思い通りにできると学んだ

2. 暴力に寛容な社会

相手が悪かったら、多少の暴力は許されると思っている

3. 男女の性の差に基づく偏見

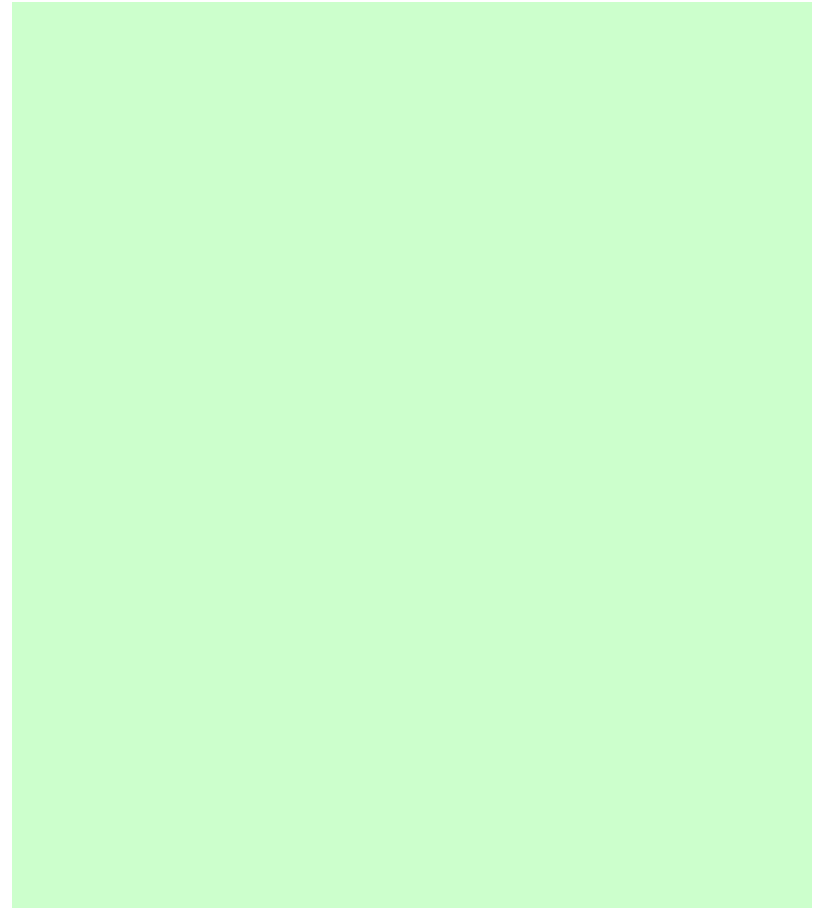
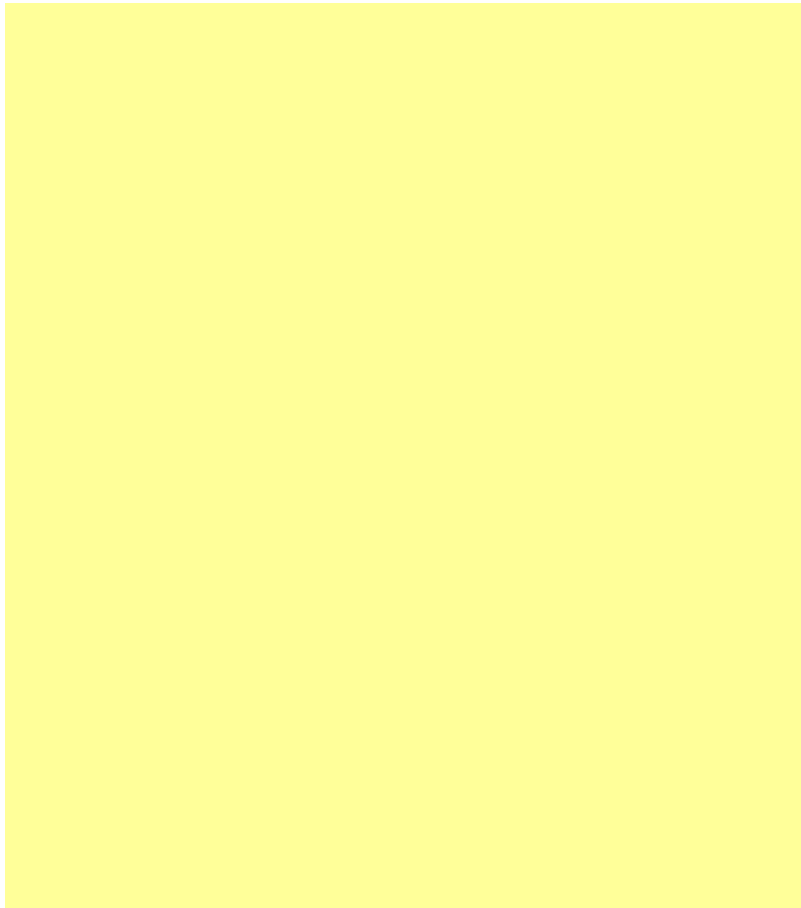
歴史や文化、社会の中で作られてきた
「男らしさ・女らしさ」に基づく偏見

**女らしさ・男らしさ
社会的につくられた性差
” ジェンダー “**

あなたは どう 思いますか？

- 女はかわいければいい
- 男は多少乱暴でもしかたがない？
- 女は黙ってついてくればいい
- 男は女よりもえらい？

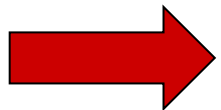
男らしさって？ 女らしさって？



男らしさって？ 女らしさって？

- ・泣かない・強い
- ・リーダーシップがある
- ・家族を養う 大黒柱
- ・積極的・行動的

- ・優しい よく気がつく
- ・従順 男性をたてる
- ・家事・育児をする
- ・でしゃばらない



暴力や支配につながりやすい考え方

DVの背景にある男女格差

日本 118位 (146ヶ国中)

上位5か国は、アイスランド、フィンランド、ノルウェー、ニュージーランド、スウェーデン。

政治・経済・教育・健康の4つの分野の格差を算定する

衆議院議員に占める女性議員の割合 113位 経済 120位
主要7か国(G7)で最下位 東アジア・太平洋地域でも18か国中 17位

**対等なパートナーシップのために、
政治・経済・メディア等あらゆる分野での
ジェンダー平等の実現を！** SDGS目標 5

世界経済フォーラム「ジェンダーギャップ指数」 2024年発表

DVやデートDVはGBVと定義される

DVやデートDV、性暴力は社会的性差（ジェンダー）に基づき、相手の意思に反して害を与える暴力

Gender Based Violence

SDGsの5番目に、ジェンダー平等

（2030年までに、持続可能な未来へ

誰一人取り残さない社会に向けての開発目標）

5、被害者支援について

～支援は連携が不可欠～

被害者支援の基礎

DVは発見される
被害者の孤立感の解消と
エンパワメント(有力化)

最初のSOSをしっかりと
受け止めよう！

被害者支援1

- 信じて聴く . . . 傾聴・受容・共感、
相手のペースで
- 責めない、裁かない、根気よく待つ
- 暴力を受けたら、ささいな怪我やあざができる程度でも診断書や写真をとっておく
- 証拠がなければこれまでの記録を書く

逃げる方法・場所はある

- ①離婚を決意した時が最も危険になる
- ②まずは、自分と子どもの安全を確保する
- ③安全を確保してから、保護命令や離婚調停を申請する
- ④社会的資源の提供 …… 公的な一時保護施設、民間シェルター、裁判のための法律扶助、母子生活支援施設、公営住宅、児童扶養手当、生活保護などいろいろある

被害者支援2

- DV被害者支援は安全の確保が第一
- 加害者を説得しても暴力はなくなる
より被害者に危険が及ぶ
- 相談機関につなぐ 付き添うなど
最寄りの配偶者暴力相談支援センターや
市役所・区役所・役場の担当課へ

DV法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律 2001年制定 2023年改正24年4月施行）

1. DVは犯罪です（精神的暴力もふくむ）
2. 配偶者暴力相談支援センターの設置
3. 保護命令（事実婚もOK, 元夫もOK）

- 身体的暴力だけでなく、精神的暴力も対象とする
 - 1年間の接近禁止 本人と子ども、親族、支援者
 - 2ヶ月間の退去命令（被害者名義の家なら6カ月）
- 上記に違反した場合、200万円以下の罰金もしくは
2年以下の懲役刑

DV法の改正—制度設計の見直し、被害者の権利保障

女性への暴力と貧困→困難女性支援法

- ①DV防止法は防止と保護に重点が置かれ、被害者の生活再建への支援は乏しい
 - ②当事者の対人恐怖やPTSDに加えて、DVへの無理解や偏見などから、地域で非常に孤立しがちである
 - ③シングルマザーの8割は就労しているが、貧困率は52%、国の支援も非常に少ない
 - ④母親の貧困は子どもの貧困につながり、教育格差など子どもの未来へ影響している
- 困難女性支援法制定—保護だけでなく、自立を支援する

言ってはいけない言葉

1. 責めない「あなたにも落ち度がある」
2. 軽視しない「たいしたことじゃない」「忘れたら」
3. 疑わない「信じられない」「ほんと？」
4. モラルのおしつけ「家族は壊してはいけない」
5. 他の人とくらべない「あの人以上まし」
6. 同情・気休め「かわいそうに」「よくあることよ」

支援のためのメッセージ

- あなたを信じます
- あなたは悪くない
- もう一人ぼっちではない
- 力になります

子どものために我慢している母親には

- 「もう我慢しなくていいよ」 と伝えよう

6. DV防止教育

**～対等な人間関係を育てる～
中高生へのデートDV防止授業紹介**

対等な関係って？

- 自分を卑下しない、相手を見下したりしない
- 安心してNOが言いあえる
- 自分のことを自分で決めている
- 尊重する、尊重されていると感じる

上下関係、支配関係でない



わたしの権利

- 自分のからだ,気持ち,性を大切にする
- 人から大切にされる
- 自分のことは自分で決める
- いやなことには「 NO ! 」と言う

気持ちをことばで伝えよう

今、あなたが感じている気持ちは何？

どんなことばで表せるか、
考えてみよう

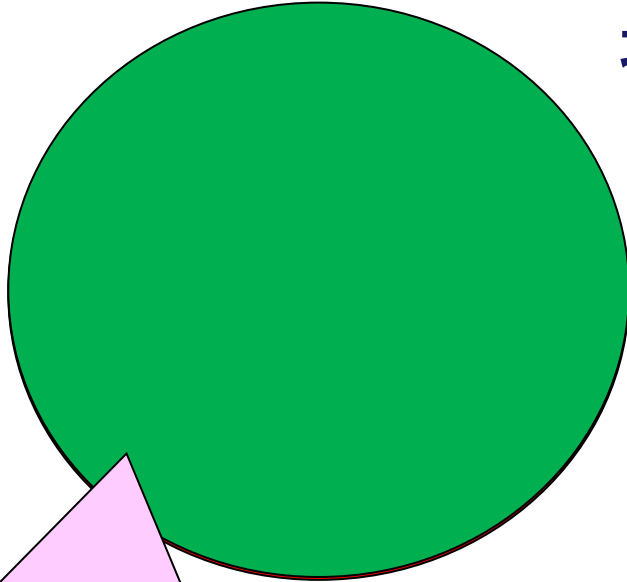


DVのある家庭で育っても・・・

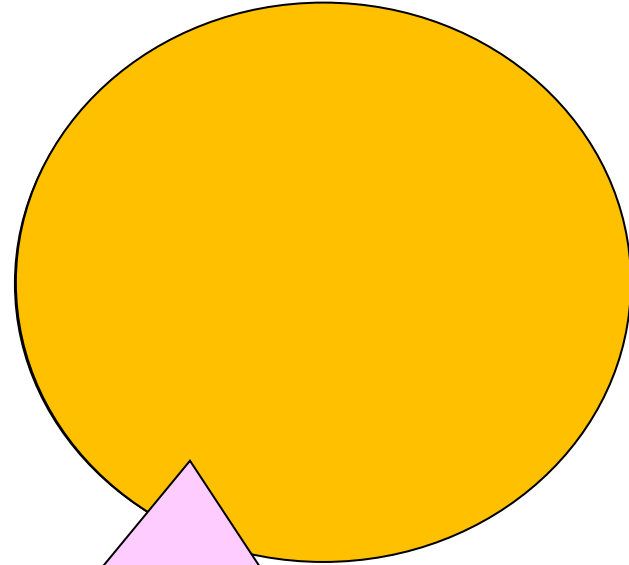
- ★ 親のDV や離婚はあなたのせいではない
- ★ 暴力をふるわない人のほうが多い
- ★ あなたが決心したら、幸せな
家庭を築くことができます！

対等で自立した関係

境界線



わたしはわたし
彼が好き、でも自分も大事
自分の事は自分で決める
尊重されてると感じる
いつも安心できる

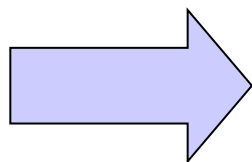


俺は俺
彼女が好き、でも束縛しない
彼女の気持ちを尊重する
尊重されてると感じる
相手を信頼できる

ステキな恋愛のルール

お互いに…

- 相手の気持ちやからだを大切にする
- 女らしさや男らしさにとらわれず、自分らしさを大切にする
- 自分のことは自分で決める



対等で自立した 相手を尊重した関係

学校での授業の様子

パワーポイントで、わかりやすく説明



自分たちで演じるシナリオ
— 友人が演じることで興味津々

DV根絶に向けて 世界の歩み

- 1、イスタンブール条約 欧州協議会が2011年制定
女性に対する全ての暴力を犯罪 現在40カ国が批准
- 2、被害者が仕事や学校、コミュニティを捨てて逃げる
ことを前提とした制度設計→DV加害者処罰法の制定
処罰し、加害者更生プログラム実施を義務付ける
- 3、ジェンダー平等教育の実施 保育所～大学まで
ジェンダー平等社会を実現をめざすー暴力のない社会
- 4、共同親権の抱える問題ー加害者の支配が継続する
欧米では見直しが始まっている 子どもの意見を聞く
女性対男性の闘いではなく、社会対暴力の闘いへ

DVが社会にもたらす経済的損失

世界各国でDV による被害と経済的コスト

イギリスは年間 6百661億92万ポンド円にすると10兆2576億円

アメリカは年間41億ドル、4651億円。世界では、4.4兆ドル、499兆円と膨大な数字。経済的コストの見積もりは、医療費、被害者と加害者の生産性の減少、刑事司法にかかる費用費等。参考文献「法と政治70巻1号(2019 年5月DV防止法の課題と加害者への働きかけのあり方著者 松村歌子)

ようやく日本の数字が報告された。約8兆円。実質GDPからの試算では6.7～11.2兆円。国家予算の約1割である。

これには次世代・地域社会への影響といった長期的な波及効果は含まれておらず、DVのもたらす社会的コストは甚大である。

政治がDV問題に積極的に取り組めば、多くの人々が幸せになるだけでなく、国も経済的に豊かになる。DVは個人の問題ではなく、社会全体で取り組むべき緊急課題である。

最後に・・・

1. DVは個人的な問題ではなく社会全体で解決すべき問題です
2. あなたの姉妹、友人、隣人、職場の同僚がDVで苦しんでいるかも知れない
3. DV防止や被害者支援は、子どもの健やかな成長を助けます。
4. あなたの知識や一言が、誰かを助けるきっかけになることがあります

今日は、聞いて下さってありがとうございます



DV防止に向けて

DV被害者への理解と支援

NPO法人 女性と子ども支援センター
ウィメンズネット・こうべ

聞いてくださってありがとうございました